

# 普47班

## 現代の高校における最適な評価の方法とは



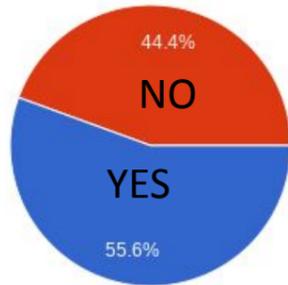
### 背景

学校教育について調べていく中で、

- ・現在変わりつつある評価方法について現三年生(旧課程)と現一、現二年生(新課程)間で異なること
- ・日々多様化する社会の中で、これからの日本を担う高校生達にとって、現在の評価方法が相応しいのかについて疑問を抱いた。

### 事前調査

生徒が学校からの評価、評定に納得しているかについてアンケートを行った(仙台三高生50名 2022実施)



#### ●納得している... [55.6%]

- ・頑張った時にはそれに見合った評価をしてくれるから。(二年生)
- ・基準があり、それに沿ってつけられた評定ならば納得するしかない。(三年生) etc...

#### ●納得していない... [44.4%]

- ・いつも寝ていてテストも自分より低い人より評価が低かったから。
- ・探究の評価で班のメンバーで働いている人と働いていない人がいるにも関わらず評価が同じだったから

### 本論1

現一、二、三年生での評価の違い

#### ・三年生(旧課程)

目標の達成率を百点満点で数値化し評価する、その中で分ける

→定期テストの比重が高い。

メリット

- ・努力が反映されやすい

デメリット

- ・部活忙しい人が大変

#### ・二年生、一年生(新課程)

達成率を観点別(三観点)で三段階(A.B.C)で評価する。

→これまで以上に主体性の評価に重点が置かれている

メリット

- ・成績下位の生徒の負担が減る

- ・より実用的なことが学べるようになった

デメリット

- ・テスト勉強の頑張りが反映されづらい

- ・授業の学習が定着しているか判断しにくい

### まとめ

私達は59回生と60回生の間で作られた新指導要領は主体性を重視し、生徒の頑張りを評価しにくい評価方法となっていることに気づきました。そこで前述の通りの新しい生徒目線からの評価方法を提案し、これからの高等学校教育の発展を目指していきます。

### 本論1の考察

「主体性」について

私達の中で主体性を

課題以外で取り組む能動的な学習を行っているか

(例:家庭学習、外部の資格試験など)

と定義する。

### 本論2

理想の評価の観点

1 生徒が学習したことを確実に定着させているか

2 学習の成果を発展的に応用して使えるか

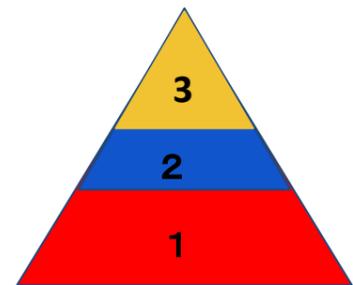
3 課題以外で取り組む能動的な学習を行っているか

この3つの中では1が最も重要であり2、3はその土台の上で成り立つ

→ **1:50%**

**2:25%**

**3:25%**



この比率が、単純に考えれば理想値と言える。

### 提案

本論2に加え、新指導要領の目標を踏まえると5教科において

**1:50% 2:20% 3:30%**

上のような比率となる。

新指導要領において重視されている主体性に重きをおいているためこの比率を推奨する。

一例ではあるが、1は今まで通り定期テストによる評価をする。2は授業内に応用力を測る活動を入れるなど。3は授業で出された課題以外に自分から取り組んだ学習、外部検定試験などを評価する。

#### その他実技教科において

実技科目は学校、教科ごとの違いが大きくなるため、私達の探究では扱わないこととしました。

#### 参考文献

[教育は何を評価してきたのか](#) 本田由紀

[複雑化の教育論](#) 内田樹